

平成27年度臨時競技委員会(全国選抜大会改革検討委員会)

平成27年9月17・18日(金・土)

名古屋市・ルブラ王山

出席者：釜井、池田、根岸、伊勢、松本、恒松、平、安藤

1・部長挨拶(釜井部長)

2. 全国選抜大会改革案検討事項について

☆伊勢委員長より資料説明あり

- ・2日目にエペの男子2回戦を入れた。3日目にエペとサーブルの試合が重ならないように工夫した。これで監督が重ならないようになった。出場種目が重なった場合でも1名の監督で対応できる。男女出場する場合でも男女各1名計2名の監督で対応可能となった。
- ・エペ、サーブルの枠を16にしてフルーレの枠をそのまま24としてはどうかという話も出たが、三種目を平等に扱うという点から同数としたい。
- ・エペとサーブルについては、地方予選の参加校が少なく枠が埋まらない可能性もあるのではという指摘があったが、各ブロックで事前の情報交換が出来れば、その辺の調整も出来るのではないかと考えている。ブロックで埋まらない場合は、同県から2校出しても良いのではないかと考えている。(規定で選抜に同種目同県2校出せない)
- ・都道府県の予選が難しいという話については、個人のポイント制を導入してシード順位を決め、トーナメント戦で行えば実施できると考えている。

①三種目24チームの出場枠とする案について

- ・高校生でエペ、サーブルのリレーを実施している大会はあるのか？
→無いと思う。
- ・エペ、サーブルの試合進行がどうなるのか、見通せないのではないかと？
→スポ少、学生、全日本、全国少年では実施している。実施していないのは高校生だけ。全日本等を見ていると、無意欲等を取ることで進行は早くなっている。
- ・将来的には一人一種目としたが、当面は難しいので、フルーレにエペかサーブルを兼ねられる形で考えた。そのためにタイムテーブルでは、フルーレを先に持ってきている。
→エペとサーブルを兼ねることは出来ないのか？
→そこは認めると、新たな問題が出てきてしまうので、認めない。
- ・この前の全国委員会で出された懸念は、出場枠が埋まらないのではないかとこの前であった。であれば、エペ、サーブルの枠を減らしておいた方がやりやすのでは。つまり地方予選が出場枠を出せるのかと

いう危惧があるのではないかとと思われる。

→事前のブロック内の情報交換で、そこは調整できると考えている。

・ブロックの出場枠は埋まるかもしれないが、開催地枠が埋まらない場合が出て来るのではないかと？

→その場合は、当該ブロックにその枠を回して確保すれば良いと考えている。

・ブロックで埋めるという考え方は良いが、全く試合を行わず無条件で出場できる状況をつくることは避けたいが。

→出場枠分の参加校しかない順位決めとなることは考えられる。普及という観点から、それはやむを得ないと思う。回が進むうちに出場校が増えてくるのではないかとと思う。

※各種目24チームの出場枠とし、8ブロックの各1位校をシードする。1回戦で同一ブロック代表が当たらないようにする。

②新タイムテーブル案について

・フルーレ、エペ、サーブルの監督を兼ねることが出来るようにタイムテーブルを組んだ。男女複数種目出場する場合でも、男女各1名の計2名の監督で対応できる。試合途中で監督が入れ替わることは認めない方向で考えている。

・試合時間は、サーブル30分、エペ60分で組んでいる。

→メンバー票交換から試合終了までを考えるサーブルの30分は無理がある。

→サーブル40分、エペ50分に調整する。

・タイムテーブルの終了時間が17時を越えているが、その点は大丈夫か？

→地元の都道府県高体連が了承すれば可能。ただ選抜は都道府県協会主催なので協会次第となる。

・最終日は、表彰式や選手紹介を調整してタイムテーブルの終了時間を再検討する。また初日、二日目も会議や開会式、選手紹介等の時間を調整して、**終了時間を5時とするタイムテーブルに再構成する。**

③用具検査について

・**メタルジャケット、カフを検査する。**

・検査場の準備状況によって、検査スタート時間が変わってくる。前日の木曜に準備が出来ていれば、金曜日の会場開館から実施できる。

・用具は、預かり即検査、即時返却で実施したい。そのために窓口を12にし、検査機器の増を検討したい。

・開会式前にフルーレ、開会式後にエペ、翌日にサーブルで対応できる。

・初日の受付は、開館から開会式までと開会式後から5時までとする。

・翌日以降は、開館から試合終了までとする。

④ 参加費について

- ・ 4 万円で問題なし。夏の会議でも特に異論は出なかった。この金額で、大会運営に関する予算が確保できる。

⑤ 監督について

- ・ タイムテーブルを変更したことで、男女複数種目に出場しても、男女各 1 名ずつ計 2 名の監督がいれば、監督不在状況を回避できる。
- ・ 試合中の監督のベンチ移動や交替は認めない。
- ・ 学校対抗戦は、監督が試合責任者である。責任者は試合開始から終了までベンチにいななければならないと考える。
- ・ 男女出場する学校の監督は、どちらの試合に入るのか相談して、決めればよい。
- ・ メンバー票交換のコールに応じた監督が、試合責任者としてベンチに入り、試合終了までいななければならない。
- ・ コールに応じた監督が、前試合に臨んでおり、当該試合に間に合わない場合は、試合のスタートを待つ場合も出て来る。
- ・ 夏の会議では、試合開始に間に合わない場合は棄権と見なされてもやむを得ないという話が出ていた。

※タイムテーブルで試合が重ならないよう配慮している。監督は試合責任者なので、メンバー票交換に応じた監督がベンチに入り、終了までベンチにいななければならないとする案に決定する。

- ・ 監督の登録数については、各種目 2 名ずつ登録できるようにしてはどうか。
- ・ 最大 6 名登録できるので、全種目 6 人の監督名が入る可能性も出て来るのではないか。
- ・ 基本は 1 種目 1 監督が望ましい。
- ・ 複数種目の監督を兼ねることが出来、男女出場していれば男女の入れ替えも出来ることにすると色々なケースが出て来るので、それに対応できる文言を検討する必要がある。

※監督は、原則チーム 1 名とする。同種目に男女出場する学校は、男女 1 名ずつ登録しなければならない。ただし、他種目の監督を兼ねることが出来、また男女で監督を交替することが出来るとする。

◎この案を 1 月の競技委員会で再度検討し原案を作成、2 月の常任委員会に諮り、3 月の全国委員会で承認を得るスケジュールとする。

⑥ 審判について

- ・ 審判の確保は出来るのか。

→ 3 日間通して出来る審判の確保は難しいが、初日はフルーレだけ出来る審判が確保できれば良い。土日にエペ、サーブルとなるので何とかな

と思う。

- ・日本協会審判委員会委員長の推薦があれば、学生の下級生でも審判として採用して良いのではないか。

※専門部審判担当と日本協会審判委員会委員長が相談して、大会審判の確保に当たる。

⑦ 地方予選について

- ・九州ブロックからは、選抜予選を全県総当たり 1 日の日程で出場校の推薦順位を決めている。それを 3 種目にするとう競技日程を増やさなければならぬので、予選を組むことが出来ないと意見が出ている。
 - ・前日の会議日を競技に当て、試合方法を変えればできると思う。
 - ・試合方法は、トーナメント戦以外は競技日程上無理だと思われる。
 - ・シードの決め方は、色々な方法がある。各ブロックで検討してもらえばよいのではないか。例えば春のブロック大会、インターハイ、JOC等各種大会の成績を参考に決めることも出来るのではないか。
 - ・ブロックで出場枠が埋まらない場合も考えられるので、各都道府県、各ブロック内での各種目参加校の把握が必要になる。出せない種目がある県の状況もつかんでおいた方がよい。
 - ・ブロック枠が埋まらない場合は、同一県から 2 校の代表でも良いと考えている。
- 全国高体連に同県 2 校出場について問い合わせたが、代表は県 1 チームとの回答を得ている。
- ・ブロック枠が埋まらない場合は、欠場とするしかない。24 チームがそろわないことが考えられる。それを避けるために都道府県やブロック内での情報交換が必要になると思われる。それでも埋まらない場合は、やむを得ない。

※ブロック予選をトーナメント戦で行う発想に転換してもらう必要がある。そのためにモデルタイムテーブルを作成し、HPに載せ、参考にしてもらう。

⑧ その他

- ・新たな選抜大会要項案を開催地に任せると大変なので、専門部でひな形を作成した方がよいのではないか。
- ・併せて、規約規程集を変える必要がある。総務が担当なので、原案を作成し、提案する。

3. その他審議事項

① 危機管理委員会の立ち上げについて

- ・今後、様々な問題が発生し、専門部の対応が問われる事態が出て来る可能性があるため、危機管理委員会を立ち上げる必要があるのではないか。

※危機管理委員会を設置する。当面は、競技委員会が兼任することにする。

②2020年問題について

・北関東で実施する10競技が決まった。残念ながらフェンシングは入っていない。

※部長を中心に色々な伝手を当たりながら、開催地を探したい。